

北条道路の完成イメージを体験

国交省倉吉 A R 技術を活用

国土交通省倉吉河川国道事務所は23日、2026年度に開通する見通しの山陰道北条道路(湯梨

浜町はわい長瀬、琴浦町規下、延長13・5km)の完成イメージを3次元的に体感するデモンストレー

ションを道の駅大栄(北条町由良宿)で行い、地元住民や北条町の松本昭夫町長(写真中央)と高木繁所長(写真右)が参加した。



A R映像を体験する松本町長(写真中央)と高木所長(写真右)



A Rで見た北条道路完成イメージ(北条町由良宿)

地元の説明会で、図面や模型だけでは分かりにくいという声があり、実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示するA R(拡張現実)技術を用いて道路構造等を理解してもらおうと、同事務所が企画した。

今回は、業務委託している復建調査設計の協力を得て、建設予定道路をカメラ

を通して画面に表示するタイプと、人工衛星の位置情報を使って道路計画モデルを一元的に表示する2種類が用意され、参加者はスマートフォンやタブレットなどでA R映像を体験した。

A Rで北条道路の完成イメージを体験した松本町長は「今の映像に重ね合わせてあり、非常に分かりやすかった。北条道路ができることでいろいろ便利になるが、北条町としては通過道路とならずに、たくさんの方が来てもらえるよう考えて

いく」と話した。同事務所は、今後A R技術を道路事業のみならず、河川・砂防事業での活用や若手の人材育成、労働時間削減を図り生産性向上に繋げるなど、今後の展開に期待している。